

この通信は、選挙期間中でも自由に配布することができます。

kokyosotsushin

高教組通信No.7 知事選特集⑥

2017年6月15日
兵庫高教組書記局

HP:「兵庫高教組」検索 → 【HSTU】TOP of 兵庫県高等学校教職員組合（お問い合わせフォームもあります）

6月15日公示、7月2日投票 兵庫県知事選始まる 職場で大いに県政を語ろう！

6月15日に兵庫県知事選挙が公示され、7月2日投票の日程で選挙戦がたたかわれます。高教組は、子どもたちのため、はたらく仲間たちのために、安心して教育と子育てができる兵庫・医療と福祉の手厚い兵庫・はたらく人の暮らしを大切に
する兵庫・原発ゼロを目指す兵庫・平和を守る兵庫をめざしてとりくみます。

県政は、私たちの生活に直結する大切なものです

連日メディアで、森友・加計問題での国政の私物化疑惑や、共謀罪法案について報道されていますが、それに比べ、県政についての報道は、ふだんあまり目にすることがありません。そのため、県知事などは誰がなっても同じだ、と思われる方も多いかもしれませんが、決してそうではありません。

兵庫県は、阪神淡路大震災からの「創造的復興」のためと称して、莫大な予算を公共事業につぎ込みました。しかしそのお金は、神戸空港に約3000億円、関西空港2期工事には1兆5600億円など、県民生活の復旧につながらない事業に使われました。その結果県財政が悪化したとして、住民サービスや教育予算、県職員の賃金が大幅にカットされてきました。

神戸空港は、多くの市民が住民投票を求めたにもかかわらず、強引に建設が進められましたが、赤字は市民の税金で補填され、挙句の果てに民間への身売りという有様です。また、震災復興事業として70億円で淡路に建設された交流の翼港は、見込んだ定期航路開設はゼロ、個人ボートの使用も見込みの1割、釣り客の駐車代金が主な収入源という状況です。

県民の声をよく聴く知事を選ぶことが重要です

また、財政が悪化したといいながら、次々と無駄な公共事業や大企業への優遇措置を現在まで続けてきたのが兵庫県です。県が行ってきたことは、震災被害からの復旧を目指した事業として正しかったのでしょうか？他にお金の使い道があったのではないのでしょうか？

大企業第一、県民は二の次の県政では困ります。県民の声をよく聴き、県民生活本位の県政を推進する人を知事に選ばないと、子どもたちの教育、県民の暮らしと仕事はよくなりません。

教職員も選挙に行けます 政治的な活動もできます

「教職員も選挙に行ける」のは当たり前だと思われる方が大半でしょう。ところが、若い教職員の皆さんの中に、「政治的中立性を守る」ために選挙に行けないのでは、と考える人がおられるという話を耳にします。選挙権行使は主権者としての権利であり、義務です。臆することなく堂々と投票しましょう。

政治に対して自制・委縮の気持ちがはたらくのは、人事院規則などが不当に公務員の政治的行動を禁止するような言葉を並べるからです。しかし、教職員がしてはならないことは「地位を利用した選挙運動」です。例えば、現役の生徒・保護者に特定の候補者への投票を依頼したり、授業で特定の候補者への投票を誘導する言動を行うことなどが許されないのは当たり前です。しかし、地位を利用したものでなければ、教職員が政治的な活動することは本来自由です。子どもたちの教育条件をよくするための要求、私たちがはたらく環境を改善するための要求に基づいた活動は、選挙期間中も堂々とできます。生徒や保護者、はたらく仲間の立場に立って、大いに活動しましょう。

政治的な活動には、特定の候補者を当選させるための「選挙運動」、政治上の主義や政策を推進・支持または反対する「政治活動」に分けて考えられます。日々の政治活動、選挙期間中の活動について疑問や不安がある場合は、高教組本部にお問い合わせください。

県知事選挙は、悪政への審判でもあります

県知事選の争点は、県民の暮らしの問題にとどまりません。地域の人々の暮らしは、国全体の政治に大きく影響を受けています。例えば、福島原発事故の反省も検証もないままに、国のエネルギー政策によって若狭湾の原発が再稼働されますが、事故が起こったときその被害を受けるのはまさに私たちです。国の政策には口を出さない、出せないというスタンスなのか、それとも原発事故の収束と検証・エネルギー政策の転換を国に求めていくのか。私たちにとって、とても大事なことです。

今大問題となっている加計学園問題は、国主導の国家戦略特区の枠組みの中で起こった問題ですが、獣医学部新設のために、今治市民の莫大な税金と財産が使われます。事業の妥当性はちゃんと検証されたのでしょうか？今治市は今後の財政悪化も心配されています。

県政が国の悪政に追随するのか、悪政をただす立場に立つのか。県知事選の争点をよく見極める必要があります。

職場で、地域で、政治について大いに語り合いましょう！

今、教育現場では、主権者教育の大切さが語られています。主権者教育にとって、私たち教職員自身が、県政をよくするために主権者として取り組むことはとても意味のあることです。職場で、地域で、仲間を巻き込んで大いに政治を語り合いましょう。そして、この県知事選挙を主権者として学習・成長する場としていきましょう。